

シンポジウム 「子どもの事故と小児歯科」

小児口腔外傷の処置について



はるき小児・矯正・歯科（兵庫県明石市）

春木 隆伸

略 歴

平成元年 岡山大学歯学部卒
カノミ矯正・小児歯科クリニック 勤務
平成7年 ワシントン大学歯学部小児歯科 Visiting Assistant Professor
平成8年 岡山大学歯学部附属病院 歯科放射線科 助手
平成11年 医療法人社団 はるき小児・矯正・歯科 開設 現在に至る

歯学博士
日本小児歯科学会専門医
日本障害者歯科学会認定医

日常の小児歯科臨床において、口腔に外傷を負った患児にしばしば遭遇します。口腔外傷の処置は、小児歯科臨床の中で最も緊急を要する処置と考えます。また、出来る限り小児の口腔の健全な成長発育を阻害しないよう、最善と思われる方法で外傷の処置を行う必要があると考えます。しかしながら、外傷はいつ起こるか予測不可能だけでなく、外傷を負った子どもやその保護者、学校園の教員は、一時的にパニックになっていることもあり、小児歯科医にとって、通常の定期健診やう蝕処置等と比較し、非常に扱いにくい処置でもあります。だからこそ、そのような外傷を負った子ども達に的確な診断のもと、いかに迅速に手際よく、適切な処置を行い、また治療後の予測等も含め、患児や保護者、学校園の教員にどの様に説明するか、小児歯科医としての専門性が大きく問われる場であるのではないのでしょうか。

今回、当院に口腔外傷を主訴として来院した患児の処置について、統計及びいくつかの症例を提示させていただきます。そして、それらの治療を行ってきた中で、(1)予約制が多い小児歯科医院で、急な外傷の受け入れをどの様にスムーズに行うか (2)普段の定期健診等での口腔内写真、X線写真等の記録の必要性 (3)的確な診断のもと、いかに迅速に処置を行うか (4)外傷の経過観察の必要性 (5)地域社会における啓蒙の必要性等、私なりに考えた、小児口腔外傷の処置において重要と思われる項目について述べさせていただきます。今回のシンポジウムを通して、先生方からも奇譚のないご意見をいただき、子どもたちの口腔外傷について、一緒に考えていきたいと思っております。